進学通信

ステップゼミナールだより

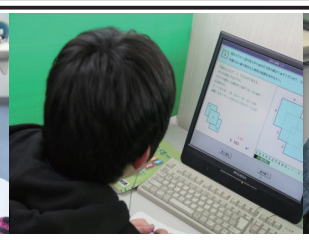
ホップ・ステップ

February 2

第88号
2014年2月1日発行

いつも走って塾に来る元気な3年生の愛美（つぐみ）ちゃん

なぜかこの教室で勉強をしたがる3年生の和（あい）ちゃん



算数のできる5年生の充汰（あらた）君。国語もがんばってね

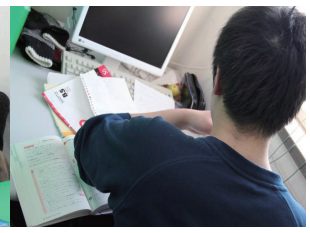
充汰君の友だちで愛美ちゃんのお兄ちゃんの勇人君

中学校の英語の勉強をする小6の山上さんと山岸君。根室育英塾の岸部塾長の授業で教科書の内容を先取り学習。

中3生は受験までもう少しです。弱点を集中的に勉強すればまだ30日もあります。まだまだ得点はアップします。

冬期講座で朝から6時まで学習するために昼食を持参。やった事は必ず結果に。人の価値は努力の量で決まります！

大学を目指して勉強する湖陵2年生の石川さんと増山さん。



高専生で勉強をする佐々木君。やっぱり剣道部！

1/11 3年生が北海道学力コンクールを受検。個人成績表を見ながら具体的に学習指導します。とにかく弱点克服です。

3年生の1/18の計算特講と1/25の歴史特講。計算力不足や社会が苦手な生徒が多い。1，2，3年生みんな同じです。

高専を目指し工業高校を退学し毎日、朝から夜まで石田君

歯学部を受験する粟野君。ホワイトボードで化学の勉強。

先生を目指す藤女子大の廣谷さん。今年から家庭教師も。

国学院大学の織田君。イケメンで優しいのに彼女はいない。

2年ぶりにエプソンの榎並君の近況を聞くことができた。

言語聴覚士の石山君も久しぶり。このあと居酒屋で5時間

24歳で埼玉県川越市の医師会附属看護学校に合格した仲村さん。今年は無理かなと思ったが見事合格。すごいです。

『高校入試まで30日！』

いよいよ2月。高校入試まで30日余りで28日には出願状況が発表になった。驚いた。こんな事でいいのかと思うくらい、うまく各学校に振り分けられている。

かなり前から学校間で調整を行っていることは確かだ。例えば明輝の数は発表前から分っていた。推薦の話が三者面談の後にある。三者面談など必要ないくらいだ。不安やプレッシャー感じている、志望校ギリギリの生徒と親が、推薦に傾くのは理解できる。それでなくても過保護状態で、ゆとり教育で、育ってきた子供たちが高校受験や大学受験を推薦では、厳しい格差社会に対応するのは難しい。

既に、メガバンクや一流商社などでは早稲田・慶應でも推薦で入学した学生は採用しないという。

2年前、定員割れで高専に合格した生徒が、母親と一緒に来て「合格したのでもう塾にはきません」と。この生徒は1年もたずに高専を退学した。楽な道を選択して得をすることはない。

塾生でも、推薦入試で進学した生徒はいる。この生徒なら推薦で行っても更に一生懸命やると思う生徒だ。当然、推薦が決まってからも塾で勉強を続けた。

不安やプレッシャーを感じながら志望校に挑戦することに「**15の春**」の意味がある。達成感や充実感、それが自信につながる。成績や学校の問題ではない。

社会で生きていくための基礎を作る時期に、どれだけ努力したかが自分の人生に大きく影響する。目標や夢に向かわなければ、そこに到達はしない。

先日、24歳の仲村さんが40倍近くの倍率を乗り越えて看護学校に合格した。また、21歳の粟野君も歯学部受験のため東京へ行っている。さらに、昨年工業高校に入学したが退学し、高専を目指して勉強中の石田君もいる。覚悟さえできれば怖くはない。長い人生を考えると必ずプラスになる。

2年ぶりに顔を出してくれた高専卒で26歳の榎並君と話をした。彼はエプソンの研究・開発室で東大や京大卒の人たちに囲まれて仕事をしている。そして大学院卒の人と同じ位の給料をもらっているにもかかわらず、転職を考えているというから驚きだ。理由は自分のスキルを上げ、医療機器の開発に携わりたいからだと言う。今は時間さえあれば勉強しているそうだ。5時間話をした。

塾の卒業生にはすごい先輩が大勢いる。皆も目標に向かって努力を続けてほしい。

『冬期講座計算テストの順位！』

計算力や正答率の低さが目立つので冬期講座の期間、計算の5問テストを1・2・3年生で15回（75点満点）実施した。結果は

1位　大坪由衣68（富原3）　2位　田中雄也67（美原3）
3位　大坪真衣63（富原3）　4位　佐藤由佳62（富原2）
5位　谷口亜未61（富原2）　5位　酒井蓮実61（鳥取3）

新学期に入ってからは計算・漢字・単語がそれぞれ5問のテストを実施しています。これも成績順に表にして貼り出します。正確に早くを意識して取り組んで下さい。

市内でもインフルエンザが流行しつつあり、学級閉鎖になっている学校もあります。2月、受験生は、ほぼ毎日、塾があります。疲れもありますので体調管理には十分注意をして下さい。

★2月の予定★

1	土	■中3理科特講■（9時～3時）
2	日	休塾●入試直前ゼミ①
3	月	中3一斉授業（6時～9時）
4	火	〃
5	水	〃
6	木	〃
7	金	〃
8	土	●入試直前ゼミ②　中3一斉授業（9時～12時30）
9	日	休塾●入試直前ゼミ③
10	月	中3一斉授業（6時～9時）
11	火	休塾　中3一斉授業（9時～13時）
12	水	中3一斉授業（6時～9時）
13	木	■中3休塾■　■推薦入学面接日■
14	金	中3一斉授業（6時～9時）
15	土	●入試直前ゼミ④　中3一斉授業（9時～12時30）
16	日	休塾　■高専入試■
17	月	中3一斉授業（6時～9時）
18	火	■私学入試■
19	水	〃
20	木	〃
21	金	〃
22	土	●入試直前ゼミ⑤　中3一斉授業（9時～12時30）
23	日	休塾●入試直前ゼミ⑥
24	月	中3一斉授業（6時～9時）
25	火	〃
26	水	〃
27	木	〃
28	金	〃

発行：ステップゼミナール　088-0617　釧路町北都２－２－１　（TEL）0154-36-4170　HP：http://www.stepsemi.com　Mail：spirits@stepsemi.com

『大学学長の 85%「学力に課題」…私大は 9 割超』

国公私立大学の学長の８割以上が「自校の学生の学力に課題がある」と考えていることが７日、リクルートマーケティングパートナーズの調査でわかった。

一方で、約５割の大学では、学力だけでなく、学習意欲を含めて多面的に評価する独自の入試を実施している現状も浮かんだ。

調査は昨年８～９月、国公私立大７４５校を対象に実施。６０.７％の４５２校の学長から回答があった。

学生の学力については､「大きな課題」（２６.１％）「ある程度の課題」（５９.２％）を合わせ､８５.３％が「課題がある」と回答した。国公私立別に､その割合をみると、私立が９３.７％で最も高く、国立（５７.６％）、公立（６１.５％）を大きく上回った。

1.8 YOMIURI ONLINE

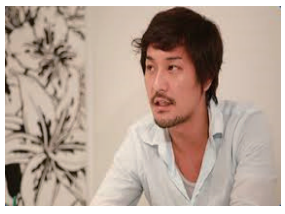
『青春うたう学生百人一首～天 声 人 語』

青春とは反抗の季節か。〈**あれもだめこれもだめだと言われてるルールの外へ飛び出したいの**〉。福岡県の中学３年、永田好（このみ）さんが詠んだ。その一面で心優しい気配りも。神奈川県の高１、宮崎由衣（ゆい）さんは〈ゆずろうか腰を浮かしてまた座るあの人ならまだ準お年寄り〉▼毎年この時期に東洋大学から「現代学生百人一首」が届く。２７回目の今回は５万６千首余りが寄せられたという。入選作からあふれる柔らかい感受性がうらやましい▼若さは新しいものを苦もなく取り入れるが、はまりすぎるとあぶない。〈**手にスマホ耳にイヤホン目は下に残る五感は味覚嗅覚**（きゅうかく)〉中２、中馬里菜（ちゅうまりな)。ついには〈**会話せず友達家族ラインだけ今にもしもし死語になるかも**〉高１、山口大介▼彼らは６年後の祭典をどう迎えるのか。〈出るかもね同級生がアスリート期待ふくらむ東京五輪〉中２、井上良信。だが、複雑な思いを抱く同世代も。岩手県の高３、田口諒(まこと)さんの作。〈東京に五輪誘致で笑顔咲くその笑顔の輪いつ被災地へ〉▼肉親の温かさが身にしみじみと。〈**仕送りで何がいるのか兄へ聞く足りないものは家族だと言う**〉高３、西村芽衣（めい)。〈甥（おい）っ子が小さな手でふれるんだこの世の形全てがおもちゃ〉高１、内藤秋音（あきね)。慈しむ視線が心を洗う▼恋の歌も数多い。〈**隣より斜め後ろの席がいい黒板よりも目に入るキミ**〉高１、川端佳織。さやあてもある。〈頑張ってと言った友はあっさりとあっという間に恋敵なり〉中３、堀紗矢香（さやか)。負けるな。

1.16

『遅刻の反省文に「時間の概念とは…」』　猪子寿之さん

学校､超好きだったすよ。お昼くらいに行ってたけど。よく掃除の時間に着いて､友達と｢もう終わりじゃん！｣｢まだ終わってねえよ｣ってやり取りをしてました。掃除しないんですけどね。で、遅刻が多すぎた数人が毎月呼び出されて反省文を書かされる。一貫して「時間に対する概念は絶対的ではない」ということを説いた。国や歴史によって「時間観」は違った、今の日本のそれは局所的なものだ、とか何とか。毎月色んな角度から書く。反省文ていうかエッセー。先生、折れますよね。めんどくさすぎるでしょ、そんな生徒。



県立だから、退学っていう伝家の宝刀が使えない。退学があったら、急にこっちの立場弱くなりますよ。高校、ふつうに出たいじゃないすか。大学も行きたいし。

■高校にランドセル､「コンテンポラリーアート」

放課後は町に行く。歩いて１０分くらいの徳島駅前。ほかの高校のやつらもいて､「ようよう」ってやるだけ。何が楽しかったんだろうね。おれはヤンキーじゃなかったすよ。なぜならダサイから。学生ズボンはフレアになってるやつで、気持ち、ヒッピーカルチャーだったんだろうね。制服着てる時点でヒッピーじゃないけど。なんだこれ、思い出すと、極めて恥ずかしいっすね（笑い)。

全然覚えてないんだけど、ランドセル背負って高校行ってたって証言もある。いま思えば、まあ、問題の提示かな。「何が違うんだっけ？学校だよね」みたいな感じ。何も考えずに思い込まれている「常識」に、からんでたんだと思います。大人的に言うと、あれだ、コンテンポラリーアートっすね。

勉強は好きでした。先生の話は一切聞けない子だったけど。教科書とかよくできてるから、もらったら読んでましたね。国語だと、小説でも論文でも、サビだけピュッと入ってるわけですから。

数学や物理は得意でしたけど、英語は８点とか６点とか。「苦手は捨てろ」みたいな戦略的なことじゃなく、単にやったけどできなかった（笑い)。長いの読めないんですよ。

■逆玉→インターネットで起業

大学は、何が何でも東大に行こう、と思ってた。日本企業の時価総額トップ３０とかあるじゃないですか。当時は、ほぼその全部が、旧財閥、旧国営、免許を国から与えられた産業、公共事業の会社の４種類。「ハンパなくおぞましい国だ」と思いましたね。

社会が終わってるのはしょうがないとして、こんな超年功序列社会で出世しても、決定権持った時にはじいさん。だから､「逆玉だ」と思った。ワープしようと。調べたら、公共事業の会社の一つが、３代続けて社長が東大出の婿養子。東大行って逆玉、嫁の親の金で子会社でももらおう、と思ってました。

だから**受験には前向きで、塾にも行ったし、学校では、授業を聞かずに集中して受験勉強してました。**

受験直前の１９９５年、ＮＨＫで「新・電子立国」という番組をみました。シリコンバレーの話で、最終回に「これからはインターネットです」って。**権力から許可を得た者しか発信できなかった「情報」を誰もが好きなように発信できる。社会全てが変わる気がして「超ロマンチックじゃん！　逆玉とかしてる場合じゃねえ」と盛り上がりました。**

「社会が変わるのに『旧社会』にいちゃいけない。江戸末期の徳川幕府に入るようなもんだ」と。現社会から一番遠いころに行こうと、投資を受けず、インターネットの世界で起業するって決めました。

■誰かが言う「常識」､うのみにしないで

東大の意味なくなったなと思って、１年の時、ネットのことが学べる慶応大ＳＦＣを受け直した。合格したけど、面接してくれた教授に言われたんです。「君は学校という存在に過度に期待しすぎている。うちも、君の大学と同じで、校名で来ている人ばかりだ。さっさと卒業した方がいい」。自分でやるしかないんだってわかって、ラッキーでしたね。

今おれは、**あたかも独自の道を歩んでるような言われ方をするけど、極めて一般的な教育のレール、社会のレールの中で細かく逸脱してただけだ**と思いますよ。守られた中でふざけてた。

ランドセルしょってたのも、エッセー反省文を書いてたのも。**常識をいったん疑って、結果的に世間と同じ結論になったとしても、全部自分で確かめたかった。別にすべてを否定したかったわけじゃないんです。遅刻に関してなんて、先生が正しかったなとも思います。時間守る習慣つけるの、大事っすよ。今も苦労してます。**

ただ、**世界は常に変わっていくし、価値観も大事なものも永遠に続くことはない。誰かが言うことをうのみにせず、自分で感じて、考えて、生きていければいいんじゃないか**なと思います。（聞き手・小林恵士）

◇いのこ・としゆき　36 歳

徳島市出身。２００１年、東大工学部卒業と同時にチームラボ創業。チームラボは、情報社会のさまざまなものづくりのスペシャリストから構成されているウルトラテクノロジスト集団。サイエンス・テクノロジー・アート・デザインの境界線をあいまいにしながら、メディアを超えて活動中。

1.17 朝日新聞 DIGITAL

最近私が観たザ・クリミナル（合衆国の陰謀）から

アメリカ政府は大統領の暗殺未遂にベネズエラが関与したとして、ベネズエラの空軍基地を報復空爆した。レイチェルという新聞記者が、ベネズエラは関与していないというＣＡＩのスパイだという職員から得た情報として新聞に掲載する。国家が危機にさらされたとして逮捕される。情報提供者はいったい誰なのか。レイチェルは国家権力と対峙することを選択したため、拘置所、そして刑務所へと収監されてしまう。それでも彼女は情報源の秘匿を貫いた。 何故、そこまでして？

この事件のアメリカ最高裁判所でのレイチェルノの弁護士バーンサイドの台詞です。

裁判長ならびに皆さん　１９７２年のブランズバーグ対ヘイズ事件

この事件で最高裁は記者の大陪審に対する証言拒否権を否定しました。

この判決により政府は記者を投獄できるように。判決は５対４と際どいものでした。

当事のスチュワート判事はこう述べています。

“これで政府の力はより強大になる”“そして権力を握る政治家たちはそれを守ろうとする”

“犠牲となるのは国民だ”彼の言う通り今の政府は強大です。

アームストロング氏も政府に屈服し情報源を明かしてもおかしくなかった。家に帰るために。しかしそれでは誰も彼女や彼女の新聞社に情報を明かさなくなる。そして同じことが別の新聞社の記者にも起こり新聞は機能を失います。つまり表現の自由の失墜です。そんな状況で大統領や軍による不正を見抜くことができるでしょうか。国を操る権力者たちには民衆からの信用など必要がなくなるのです。考えてもみてください。国民の目を気にしない政府―とても恐ろしい。記者の投獄など他国の話であり民衆を恐れる国家のすることです。

国民を守り慈しむ政府には無縁だ。私は少し前から感じ始めていました。依頼人の精神に負担がかかっていることを。そのため“私が守るのは君で、主義じゃない”と言いました。

しかし偉大な人物にとって“主義”こそ命であると彼女は気づかせてくれました。